

「きっぱり」

「きっぱり廃止」の世論を！ 教員免許更新制をめぐって

野村 幸司

「教育基本法」改悪を強行（2006年）した第一次安倍政権が、その具体化として導入したのが「教員免許更新制」です（2007年に法改正、実施は2009年より）。「不適格教員の排除」を口実とした導入でしたが、教員統制につながる懸念、更新講習の受講機会の確保・講習内容の問題、教員の大幅な負担増（時間的・経済的）、免許失効に伴うトラブル等、様々な問題が指摘され、幅広い反対の声が巻き起こる中で強行でした。

安倍総理の突然の辞任後に誕生した民主党政権は、その「マニフェスト」に免許制度を「抜本的に見直す」というたったものの見直されることにはありませんでした。それから12年。教員の負担増、「うっかり失効」、未更新による教員不足等々、予想された問題が次々と生じてきました。そして、教職の多忙化とそれに伴う深刻な教員不

足が重大な政策課題となる中で、制度自体の破綻が明らかになり、この夏遂に免許更新制は「廃止」に向かつて大きく動くことになりました。「教育新聞」は8月23日に、次の様に伝えました。

◇ ◇ ◇

もったも、きっぱり「廃止」に向かうかどうかは注視する必要があります。自民党の中には「廃止」に対する異論が少なからずあるようです。「廃止」するにしても、その後の「研修の義務付け」強化を求める声も上がっています。9月27日に開かれた中教審の「合同会議」では、早速次のような意見が出ています。

「現場から聞こえてくるのは、教員免許更新制の廃止への期待とともに、『発展的解消』というこの文言への不安だ。新制度ができて、研修をいっそう徹底させられるのであれば、勤務環境が厳しくなるのではないかと表面的に伝わることを大変危惧している」

初オンラインの会場の一つが四万十市の安並武道館会議室で、幡多地域の参加者で視聴しました。講師が地元の山下正寿さんであることもあって、「宿毛市在住の山下正寿さんの講演を幡多地域から盛り上げよう」「核兵器禁止条約が国際法となった本年、幡多地域からも協力をしよう！」と、オンラインでの集団視聴参加を呼びかけました。

記念講演をオンラインで。山下正寿さん 高知城ホールにて

夫婦別姓について 思うこと

高教組教文部長
古畑邦明



「家族の一体感が失われる」「子どもがかわいそう……」夫婦別姓に反対する人たちの心配は本当だろうか？

夫婦「別姓」の我が家の中高校生に成長した子どもたちは、家庭内では姓を意識することはないので、気にも止めないという。ただ、学校で「お前の家、別れたの？」などと言われたことはあったという。初耳だったが、彼らなりに嫌な思いもしたり、しまい込んできた記憶もあったかもしれない。長女にもう一つたずねた。「もし結婚したら姓を変えらる？」すると「変えないが6割かな？でも、相手の姓がカッコよかったら変えようかな。」とあっけらかんと応えた。

他の夫婦別姓の家庭の子どもたちはどうだろうか。NHKのEテレの番組「ウワサの保護者会」で夫婦別姓が取り

上げられた。この番組の中で、もしも夫婦別姓が法律で改正されたら旧姓に戻したいという2人のお母さんが、その思いをそれぞれの子どもに打ち明けるといふ企画があった。子どもたちの反応はさまざまで、中学生の長男は「別にいいんじゃない」とそっけない返事。もう一人のお母さんの長男も「僕たちに関係ないし……」という反応。どうやら男の子たちはあまりイメージできない様子。一方、長女の反応はそれとは異なり「できれば戻さないでほしい。名字が違くと家族がまとまっていな感じがする。」と具体的に、そこでお母さんが長女に「自分が結婚するとき名字を選べるとしたらどうしたい？」とたずねると、長女は「私はずっと今の苗字を名乗っていききたい。すく親しみがある。」と答えた。自分の立場に置き換えたときはどう思うかという問いかけは、母の気持ちをより深く考えさせきっかけになったと思う。

安倍政権が終わったとき、もしかして夫婦別姓が実現するかもしれない、と淡い期待を抱いた。改正されれば暗れて結婚届を出せる！これまで受けられなかった配偶者特別控除（年間40万円弱の控除を受けられない悲哀にあっ

静かな歌曲 柳井卓コンサート

三谷隆彦

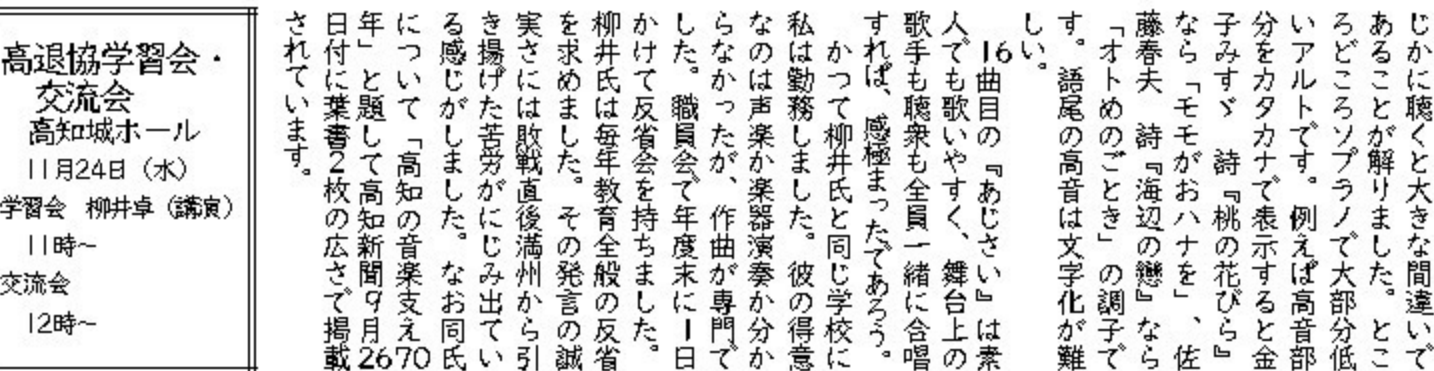
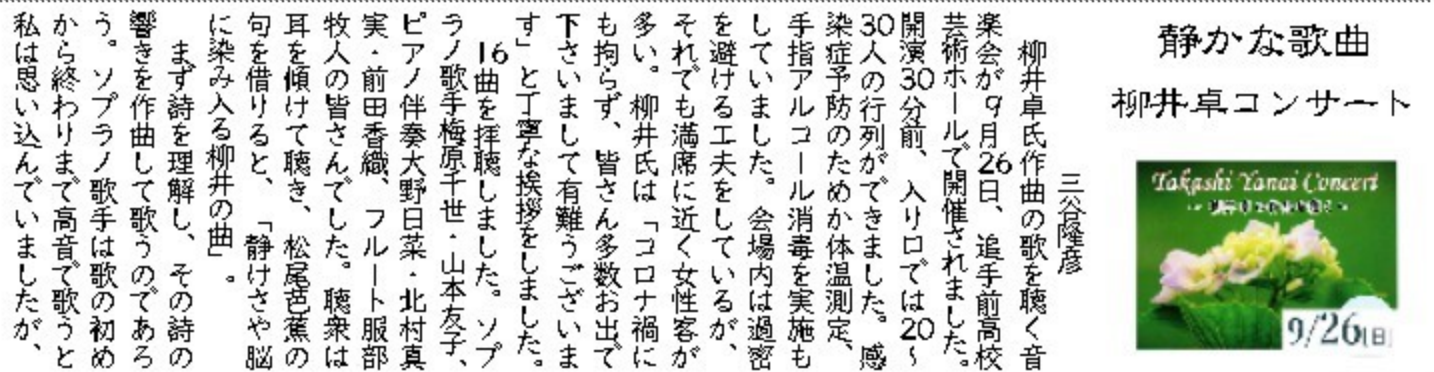
柳井卓氏作曲の歌を聴く音楽会が9月26日、追手前高校芸術ホールで開催されました。開演30分前、入り口では20、30人の行列ができました。感染症予防のため体温測定、手指アルコール消毒を実施もしていただきました。会場内は過密を避ける工夫をしているが、それでも満席に近く女性客が多い。柳井氏は「コロナ禍にも拘らず、皆さん多数お出で下さいまして有難うございました」と丁寧な挨拶をされました。

16曲を拝聴しました。ソプラノ歌手梅原千世・山本友子、ピアノ伴奏大野日菜・北村真実・前田香織、フルート服部牧人の皆さんでした。聴衆は耳を傾けて聴き、松尾芭蕉の句を借りると、「静けさや脳に染み入る柳井の曲」。

まず詩を理解し、その詩の響きを作曲して歌うのである。ソプラノ歌手は歌の初めから終わりまで高音で歌うと私は思い込んでいましたが、

高退協学習会 交流会 高知城ホール

11月24日（水）
学習会 柳井卓（講演）
11時～
交流会
12時～



山下正寿さんの講演は大盛況で、幡多会場では次のような声が寄せられました。○山下正寿さんの知識・行動力のもとになってくれているものが何なのかを知ることができた。○山下さん、えらい人だと思っていたが、それ以上で感動した。彼の底にある哲学に感動した。○「権力と闘うこと」これは全ての運動の根本であり、全てが繋がっている。一つの問題を深く学び、活動に参加することは運動の全体を知る窓である、知った。そして、楽しく闘う。これが大事。○「生命を生み、生命を守り育てる」母親運動の奥が深い。次の世代にしっかり真剣に、そして早急に繋げる課題を強く感じた。